「浄土宗から青少年へのメッセージ」指導手引書（高校用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【作成】

浄土宗宗立宗門校教育振興会

　　　　研修企画委員会

|  |
| --- |
| 目的 ： 宗立宗門校入学生徒に必ず「浄土宗からのメッセージ」に触れさせるため。  使用教材： 「高校生用ワークシート\_1コマ完結版（浄土宗からのメッセージ）」  　 展開方針：授業進度や授業スタイル、既習事項の差に鑑み、実施時期や扱い方は各校裁量とする。  注意事項：教員主導で進めないこと。タイムキーパーと全体のファシリテーターに徹すること。 |

【1コマ完結ver.　個別回答～意見共有～回収】

１．「浄土宗開宗850年を機に、宗祖法然上人の生涯と思想を現代的に解釈し直したメッセージを、未来の宝である青年に託す。これを羅針盤として、彼（女）らが混迷する時代の中で『ともいき社会』の実現を目指し、法然上人の御心を具現化することを目的とする。」というメッセージ制定の趣旨を説明する。（5分程度）

　　「高校生用ワークシート（浄土宗からのメッセージ）」を配布。

　　宗からのメッセージに対する志を作成する旨を理解させた上で、個別に問1～問5を回答させる。（15分程度）

2．グループを作成し、進行役・記録係を決めさせる。進行役主導で、全ての回答を共有させ、ディスカッションを促す。

　　ディスカッション中、机間巡視にて様子を確認しつつ、活発な意見交換ができるよう適切なアドバイスを行う。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（20～25分）

3．意見共有での気付きを問6として記入させ、回収する。（5分程度）

※基本的に評価はしない。

※必要な場合であっても、以下の三段階程度に留めておくことを推奨する。

　いずれも、机間巡視でディスカッションの様子を加味する前提とする。

　Ａ：積極的にディスカッションに加わっており、各問に主体的に取り組まれている上、志がうまくまとめられている。

　Ｂ：ディスカッションには適切に加わっており、問に対する回答も一定の基準を満たしている。

　Ｃ：ディスカッションには消極的で、一定以上の回答がなされていない。

【2～3コマver.　個別回答～意見共有～合意形成】

4．上記１～３を第１時限で実施。但し１コマver.と異なり、意見共有し、志を合意形成させる点に留意する。予め志はグル　　　ープメンバーの総意であること、メンバーの意見が全て入っていることを条件とし、合意形成させること。

　　第２時限は最初からグループ毎に着席を指示。各代表にグループ意見を板書させる。並んだ意見をグループで一つにまと　　　めるよう指示。（導入含めて３０分を目途） ※１時限目に合意形成ができていなければ、２時限目を使う。

5．意見がまとまったグループから代表者が板書。全てが揃ったところで見比べさせ、各代表から意見を出させる。

　（※ここで教員が強引に一つにまとめる手法もあるが、立派な意見に仕上げるためではなく、全ての意見を含んだ妥協案・　　折衷案を自分達で作り上げることの重要性を教授することを目的とするため、教員は口を出さないこと。）最終作業は原　　則として代表同士の話し合いになるが、この段階でこの作業を生徒達が自分事にしていれば、自由に意見が出る。（10分　　～15分を目途）

6．ここまでに十分な話し合いがされていれば、ほぼ意見はまとまるため、それをクラスの志として完成。

7．さらに各クラスの志を集め、代表者を集めて合意形成すれば、その学校（学年）の志としてまとめることも可能。

※　時間に余裕があれば、過去のアピール文と自分達で合意形成した志を比較して意見交換することも可能。

※　評価対象物が必要であれば、「合意形成した志と過去のアピール文を比較して気付いたことを踏まえ、改めて『ともいき社

会』の実現に向けて(あなたがすべきor世の中に必要な)ことを○○字程度で述べなさい。」の様な内容の文章を書かせ、振り返りとすることも可能。

「浄土宗から青少年へのメッセージ」指導手引書（中学用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【作成】

浄土宗宗立宗門校教育振興会

　　　　研修企画委員会

|  |
| --- |
| 目的 ： 宗立宗門校入学生徒には必ず「浄土宗からのメッセージ」に触れさせるため。  　使用教材：「中学生用ワークシート\_1コマ完結版（浄土宗からのメッセージ）」  　展開方針：授業進度や授業スタイル、既習事項の差に鑑み、実施時期や扱い方は各校裁量とする。  注意事項：教員主導で進めないこと。タイムキーパーと全体のファシリテーターに徹すること。 |

【1コマ完結ver.　個別回答～意見共有～回収】

１．「浄土宗開宗850年を機に、宗祖法然上人の生涯と思想を現代的に解釈し直したメッセージを、未来の宝である青年に託す。これを羅針盤として、彼（女）らが混迷する時代の中で『ともいき社会』の実現を目指し、法然上人の御心を具現化することを目的とする。」というメッセージ制定の趣旨を説明する。（5分程度）

　　「中学生用ワークシート（浄土宗からのメッセージ）」を配布。

　　ともいき社会を実現させるための意見を作成する旨を理解させた上で、個別に問1～問4を回答させる。（15分程度）

2．グループを作成し、進行役・記録係を決めさせる。進行役主導で、全ての回答を共有させ、ディスカッションを促す。

　　ディスカッション中、机間巡視にて様子を確認しつつ、活発な意見交換ができるよう適切なアドバイスを行う。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（20～25分）

3．意見共有での気付きを問5として記入させ、回収する。（5分程度）

※基本的に評価はしない。

※必要な場合であっても、以下の三段階程度に留めておくことを推奨する。

　いずれも、机間巡視でディスカッションの様子を加味する前提とする。

　Ａ：積極的にディスカッションに加わっており、各問に主体的に取り組まれている上、志がうまくまとめられている。

　Ｂ：ディスカッションには適切に加わっており、問に対する回答も一定の基準を満たしている。

　Ｃ：ディスカッションには消極的で、一定以上の回答がなされていない。

【2～3コマver.　個別回答～意見共有～合意形成】

4．上記１～３を第１時限で実施。但し１コマver.と異なり、意見共有し、「今、自分達がやるべきこと、考えておくべきこと」を合意形成させる点に留意する。進行役にまとめる際の注意点を伝える。「グループメンバーの総意であること、メンバーの意見が全て入っていること」

　　第２時限は最初からグループ毎に着席を指示。各代表にグループ意見を板書させる。並んだ意見をグループで一つにまと　　　めるよう指示。（導入含めて３０分を目途） ※１時限目に合意形成ができていなければ、２時限目を使う。

5．意見がまとまったグループから代表者が板書。全てが揃ったところで見比べさせ、各代表から意見を出させる。

　（※ここで教員が強引に一つにまとめる手法もあるが、立派な意見に仕上げるためではなく、全ての意見を含んだ妥協案・　　折衷案を自分達で作り上げることの重要性を教授することを目的とするため、教員は口を出さないこと。）最終作業は原　　則として代表同士の話し合いになるが、この段階でこの作業を生徒達が自分事にしていれば、自由に意見が出る。（10分　　～15分を目途）

6．ここまでに十分な話し合いがされていれば、ほぼ意見はまとまるため、それをクラスの意見として完成。

7．さらに各クラスの意見を集め、代表者を集めて合意形成すれば、その学校（学年）の意見としてまとめることも可能。

　　※　時間に余裕があれば、過去のアピール文と自分達で合意形成した志を比較して意見交換することも可能。